今月の PICK UP

『須賀敦子が選んだ日本の名作―60年代ミラノにて』

須賀 敦子/編 河出書房新社 913.6ス

編者の須賀敦子さんは、1960年代のイタリアで20代後半から30代後半を過ごしました。その後、50代以降イタリア語の翻訳者として多数の日本文学作品をイタリアに紹介しています。

この本は須賀さんが翻訳し、イタリアで出版された作品の中から選んだ13編を掲載しています。森鴎外著『高瀬舟』や樋口一葉著『十三夜』など、いずれも日本を代表する有名な作品です。また、一話ごとに須賀さんの丁寧な解説があり、百年近く前の時代背景や、その作品に対する作者の思いや考えを、より深く理解し楽しむことができます。

司書のおすすめ

『お味噌知る。』 土井 善晴・土井 光/著 世界文化社 596.2ド

ちゃんとしたお味噌汁を作るなら、自分で出汁を取るところから？ いえ、そんなことはないのです。水で具材を煮て、味噌を溶く。日常のお味噌汁ならこれで十分。この基本形にプラスして、具材を油で炒めてから作るお味噌汁、季節の素材を使ったお味噌汁など、毎日の食卓のためのお味噌汁レシピが紹介されています。

『京都の風呂敷屋さんが教える 一生使える！ ふろしきの結び方・包み方50』

山田 悦子/著 PHP 研究所 385.9ヤ

2月23日は、つつみのゴロ合わせで風呂敷の日です。そこで、ご紹介するのがこの1冊です。広げた平面の美しさと、また立体になった時の美しさを考えて、風呂敷バックから包み方やデコリ方まで暮らしに役立つ活用術が紹介されています。お勧めは、本をおしゃれに風呂敷ごと贈れるリボン包みです。是非、包んでみて下さいね。

『失われゆく仕事の図鑑』永井 良和・高野 光平/他著 グラフィック社 384.3ウ

鋳掛屋（いかけや）、水売り、踏切番などなど。これらの仕事をご存知の方はいらっしゃるでしょうか。現在は見かけませんが、落語や昭和中期頃までの本には出てきそうですね。

この本では時代とともに見かけなくなった仕事121点を紹介しており、なつかしさや驚きを感じていただけるのではと思います。それにしても、昭和30年代に大手新聞社では伝書鳩が働いていた、ということに大変ビックリさせられました。

『四季彩図鑑』 北山 建穂/著 永方 佑樹/詩 みらいパブリッシング 757.3キ

日本には古来より様々な色名があります。この本はそんな日本の伝統色を、まさに色そのものを具現化したかのような風景写真に添えて紹介しています。ところどころ挿入されている詩は写真と渾然一体となって、見る人を美しく赴き深い世界へ誘います。「思色（おもいいろ）」「移色（うつしいろ）」「不言色（いわぬいろ）」などあまり聞き覚えのない色を知ることができるのも魅力です。